

平成 27 年度 荒浜小学校の取組

1 重点取組事項

- 1 校内研究における防災教育への取組
- 2 安全に生活することができるようにするための取組
- 3 復興プロジェクトの実施

2 重点取組事項の具体的な内容

- 1 校内研究において、全学年で授業を行い、防災教育の授業の充実を図る。荒浜のこれまでの歴史や現在の復興の様子、人々の思いから、防災について学ぶ。



2 ① 我が家の防災カード

児童が災害発生時の約束を家族と話し合い、約束したことを記入し、各家庭に貼る。自分で行動し、自分の命を守れるようにしたい。また、危険個所などを一覧にした地図を学校に貼り、いつでも意識できるようにする。

② 非常時スクールバス対応訓練

ほとんどの児童がスクールバス通学なので、災害発生時の児童の動きを確認するために行った。乗車時、またはバス待合時の児童やバス、学校の動きについて保護者に周知するとともに、児童が自ら適切な判断ができるようにする。

③ 帰宅後の安否連絡訓練

本校は震災後事実上学区がないため、帰宅後の児童の動きを把握することが容易ではない。そのため、帰宅後に家庭と学校と連絡をとる訓練を行い、非常時にもスムーズに連絡を取り合えるようにする。

④ 七郷中学校区地域防災訓練

来年度統合する七郷小学校、児童の多くが進学する七郷中学校と合同の地域防災訓練に全校で参加した。来年度から新たにできる地域のコミュニティに参加し、非常時の心構えや行動の仕方を身に付ける。

3 復興プロジェクトの実施

地域に貢献できる児童の育成を図るため、毎月1回程、地域のゴミ拾いや草取りを行う。また、11月と3月には東宮城野小学校と合同の集会を行い、復興に向けてがんばろうという気持ちや、これまでの支援や交流への感謝の気持ちを持つ機会とする。

3 成果と課題

- 1 「ふるさと荒浜とともに ～復興のため わたしにできること～」を研究テーマとして、総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムを編成した。昨年から取り組んできた地域とのつながりを核とした防災や復興の学習の総まとめとした。震災以降 25 年度までは、児童の心情に配慮し、荒浜での教育活動を意図的に計画しないようにしてきた。しかし、少しずつ児童の様子に変化が表れはじめたことから、児童のふるさとである荒浜に深く関わる活動を取り入れた学習に転換を図った。児童は地域の人や復興に関わる人と触れ合うことで、今も、これから先も自分に何ができるかを考え、実践しようとするようになった。
- 2 毎年訓練を重ねてきたこともあって、児童はどの訓練においても落ち着いて行動する様子が見られた。学校生活以外の時間に災害が起きたときにも、慌てずに自分で考え適切に対応できるようになってほしい。
- 3 復興プロジェクトの意義を考えながら 5 年間続けて活動してきたこともあって、奉仕の心が育ち、復興に向けての意欲も増してきたように思う。また、学区にあった深沼海水浴場の清掃をしたり、荒浜校舎の清掃や草取りをしたいと要望を出し活動したりすることもできた。



荒浜探検



海岸清掃